3076 東証１部 あい ホールディングス株式会社

2010 年 6 月期　決算説明会・フォローアップ取材メモ

2010 年 8 月 31 日開催のあい ホールディングス株式会社（以下、あい HD）の 2010 年 6 月期決算説明会（説明者：　代表取締役会長　佐々木秀吉氏）、ならびに管理本部　広報室室長の小林武氏に対するフォローアップ取材の概要をご案内いたします。

2010 年 6 月期連結決算概要

2010 年 6 月期連結決算は、売上高 25,855 百万円（前年同期比　10.9%増）、営業利益 2,312 百万円（同 49.3%増）、経常利益 2,915 百万円（同 40.4%増）、当期純利益 2,132 百万円（同 120.7%増）となった。

セグメント別では、2007 年 4 月、あい HD に経営統合した中核事業会社　グラフテック（株）（以下、GT）の行うコンピュータ周辺機器関連事業が黒字化したことと、2009 年グループ入り、当 2010 年 6 月期よりフル連結対象となった（株）塩見設計（現あい設計）の行う耐震構造設計事業が順調に拡大したことによる業績寄与が大きい。当期純利益については、投資有価証券売却に伴う税務上の減額　229　百万円、繰延税金資産の調整による減額 139 百万円などを中心に、合計で 449 百万円の税務上の減額があったことから、大きく回復した。

GT　については、あい HD　グループ入り前から数えると、実に　14　期ぶりの黒字化となった（経営統合後、決算期変更があったため、対象期間　2　期分は　15 ヶ月　1　期として集計）。この背景には、若手登用による組織の活性化、売上主義から粗利主義への切り替えによる利益重視に向けての意識改革など、通常の会社として当たり前の施策を徹底したことがある。グループ全体の開発を担う、あいエンジニアリングによるコンピュータ周辺機器、計測機器の新製品開発を今期以降も加速。さらに、シンガポールに引き続き、中国　（広州、北京、上海）に販売拠点を設置し、販売拡大のための販売網を強化するなど、前向きな投資を増やして行く。特に、海外市場については、ここ数年、拠点閉鎖を優先してきたが、昨年より成長拠点についての投資を実施するとともに、従来コンピュータ周辺機器であるプロッタやカッティングマシンのみを取扱っていたラインアップに計測器を加え、新チャネル開拓を図る。このため、営業要員についても増強する。

一方、（株）ドッドウェル　ビー・エム・エス（以下、ドッドウェル　BMS）の行うセキュリティ機器関連事業について、マンション導入件数は、前年同期の 1,953 件から 2,083 件に順調に増加し、粗利益についても前期の 1,648　百万円から　1,659　百万円に伸長したが、法人企業向けが不振で、粗利益は前期の　1,214　百万円から 1,006 百万円に減少した。

同じくドッドウェル　BMS　が行うカード機器関連事業は、主力の病院向けカード発行機、ならびにヨーロッパ

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。 投資に際しての最終決定は投資家の皆様ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Copyright © 2010 Trias Corporation.　All rights reserved.

向けクレジットカード即時発行機の売上は想定どおりであったが、国内の金融・流通向け売上が伸びなかった。ただし、前期計上されていた粗利の低いその他事務機器関連案件が無くなったこと、また販売管理費などの経費削減に努めたことにより、営業利益は大きく改善した。

セグメント別業績　※事業を担当する主要事業会社

（百万円）		FY6/09 実績	FY6/10 実績	前年同期比 増減額	増減率
セキュリティ機器関連事業	売上高	6,008	6,056	48	0.8%
※ドッドウェル ビー・エムー・エス	営業利益	826	581	-245	-29.7%
（ドッドウェルBMS）	営業利益率	13.7%	9.6%	-	-
カード機器及び	売上高	4,040	2,988	-1,052	-26.0%
その他事務用機器関連事業	営業利益	243	395	152	62.6%
※ドッドウェルBMS	営業利益率	6.0%	13.2%	-	-
コンピュータ周辺機器関連事業	売上高	5,998	6,167	169	2.8%
※グラフテック（GT）	営業利益	-217	466	683	-314.7%
	営業利益率	-3.6%	7.6%	-	-
保守サービス関連事業	売上高	2,872	2,553	-319	-11.1%
※ドッドウェルBMS、GT	営業利益	72	-29	-101	-140.3%
	営業利益率	2.5%	-1.1%	-	-
設計事業	売上高	1,866	4,296	2,430	130.2%
※あい設計	営業利益	244	434	190	77.9%
	営業利益率	13.1%	10.1%	-	-
計測機器事業	売上高	1,410	1,359	-51	-3.6%
※GT	営業利益	184	242	58	31.5%
	営業利益率	13.0%	17.8%	-	-
リース・割賦事業	売上高	670	2,171	1,501	224.0%
※ドッドウェルBMS	営業利益	160	68	-92	-57.5%
	営業利益率	23.9%	3.1%	-	-
その他関連品事業	売上高	686	519	-167	-24.3%
※GT	営業利益	-144	-11	133	-92.4%
	営業利益率	-21.0%	-2.1%	-	-
連結消去	売上高	-246	-258	-12	4.9%
	営業利益	178	163	-15	-8.4%
合計	売上高	23,308	25,855	2,547	10.9%
	営業利益	1,548	2,312	764	49.4%
	営業利益率	6.6%	8.9%	-	-

（出所）会社情報をもとにTrias作成

主要事業における取組み

あい HD の事業展開の根底には、成熟市場においてニッチ領域を見つけ、先行者メリットを享受するだけでなく、維持し続けるチャレンジがある。たとえば、事業の柱の一つであるセキュリティ機器関連だが、セキュリティ機器市場全体は巨大でニッチとはいえない。しかし、あい HD のターゲットとするセキュリティ設備を

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。 投資に際しての最終決定は投資家の皆様ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Copyright © 2010 Trias Corporation.　All rights reserved.

持たない既設マンション市場は、セキュリティ機器領域のニッチ市場といえる。同社のビジネスデルは、6 年（=72 回）のリースアップ後の保守、すなわち人間の介在が必要なサービスを提供する形態になっていて、中長期的に安定した事業拡大が期待できる。保守サービスを伴うビジネスモデル構築には、パートナー企業との連携、特に全国規模での代理店網が重要で、過去 8 年をかけ、ドッドウェル BMS ではそのようなパートナー網の開拓を進めてきた。一方、不振の一般法人向けについては、新規開拓を前期より強化。全国 32 営業拠点をベースに、新たな地域の開拓を手がけるとともに、大手法人の開拓に注力している。また、よりニッチな視点で、全国の商店街に向けての防犯カメラ設置の営業を強化している。新製品開発では、カナダ製のカメラ1台で 360° フルアングルで死角のないレンズを採用し、メガピクセルカメラとの組合せにより見せる技術を駆使した新製品「マルチアイシステム」を 9 月より導入、金融機関やコンビニ等への営業を開始した。

カード機器関連事業では、成熟した即時発行機市場に残る唯一のメーカーとして、残存者メリットを享受できる立場にある。今後の成長は、自ら市場を深耕できるかにかかっている。例えば、同じく成熟市場で、GT の手がける計測機器関連製品に、データロガー GL シリーズがある。データロガーとは温度変化をデジタルデータとして記録する機器で、既に市場では 20 年以上も前から使用されてきた息の長い製品だ。前期 GL シリーズは、累計で 37,500 台の販売を達成。今期は 1 万台を販売目標としている。月間の販売台数が多くて数十台といった測定機器の領域で、GL シリーズは 3 桁以上を販売する。この背景には、顧客ニーズをこまやかに吸収、顧客の視点に立った機能更新を継続、買い替えやすい値段設定を行うなど、既存市場の深耕へのたゆまぬ取組みがある。GL シリーズのような計測器を道具として扱うニッチ市場は成熟してもなくならない。利便性に基づく代替ニーズが常にある。こういったニーズを顧客とのコミュニケーションを通じ具現化することで、中長期的な成長は十分に担保できると考えているし、前述のカード関連事業においても、このような市場機会は十分あると考えている。

2011 年 6 月期　業績予想の概要

2011 年 6 月期の連結業績予想は、売上高 260 億円（前年同期比 0.6%増）、営業利益 22 億円（同 4.9%減）、経常利益 27 億円（同 7.4 減）、当期純利益 16 億円（同 25.0%減）。下期の市況は厳しいとの想定で、達成可能な最低ラインの業績予想を作成した。特に、昨年グループ入りした あい設計の昨年 3 月末に向けての事業が好調であったため、前第 3 四半期の業績の伸びが大きかった。今期、あい設計の翌 3 月末に向けての受注動向が見えないことも、予想に織り込んでいる。なお、当期純利益については、前期に発生した法人税関係の戻り（約 4.6 億円）がなくなること、ドッドウェル BMS の確定拠出年金制度移行に伴う特損（約 2 億円）が織り込まれている。実効税率については、今期より平準化する。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。 投資に際しての最終決定は投資家の皆様ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Copyright © 2010 Trias Corporation.　All rights reserved.

質疑応答　※質疑応答には、インタビュー時の内容も含みます。

Q1.　2010 年 6 月期は、在庫（主に商品及び製品）、買掛金ともに増加しているが、何らかの積極投資を行ったのか？

在庫増は主に、ドッドウェル BMS のリース案件向け在庫によるものだが、既に売り先は決まっている。買掛金についても、同じくリース向けが約 9 億円増えた。この他、GT が強化している新製品開発用金型投資等に係る支払手形及び買掛金が5.4億円含まれる。ちなみに、GTの開発投資は、前期に比べ、今期は倍増の予定。

Q2.　リース・割賦関連事業の今後の展開について？

リース事業は、セキュリティ機器関連事業のうち、マンション向け案件向けに、借入を通じた転リース（＝リース物件の所有者から当該物件のリースを受け、さらに同一物件を概ね同一条件で第三者にリースする取引）で、三菱 UFJ リース（株）と組んでいる。利益率は低いが、リスク回避を優先している。リース残高について、ここから大きく増やすつもりはないが、現状は許容範囲と考えている。

Q3.　設備投資・減価償却費の見通しは？

原則として、設備投資は減価償却費の範囲内としている。前 2010 年 6 月期の設備投資額は 3.1 億円、減価償却費は 3.78 億円だった。今期は、あいエンジニアリングへの投資が増えるため、設備投資額 5 億円、減価償却費 4 億円強を予想している。

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。 投資に際しての最終決定は投資家の皆様ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Copyright © 2010 Trias Corporation.　All rights reserved.

連結主要指標と連結業績の推移

連結主要データ		
発行済み株式数(株)	2010.6月	56,590,410
うち自己株式数(株)	2010.6月	1,695,568
時価総額(百万円)	2010.9.27	15,958
1株当純資産(円)	2010.6月	386.0
ROE(%)	2010.6月	10.3
ROA(%)	2010.6月	7.4
PER(倍)	2011.6月予	9.7
PCFR(倍)	2010.6月	6.4
PBR(倍)	2010.6月	0.7
株価(円)	2010.9.27	282
単元株数(株)	2010.6月	100
日々平均出来高(株)	2010.9.27	102,467

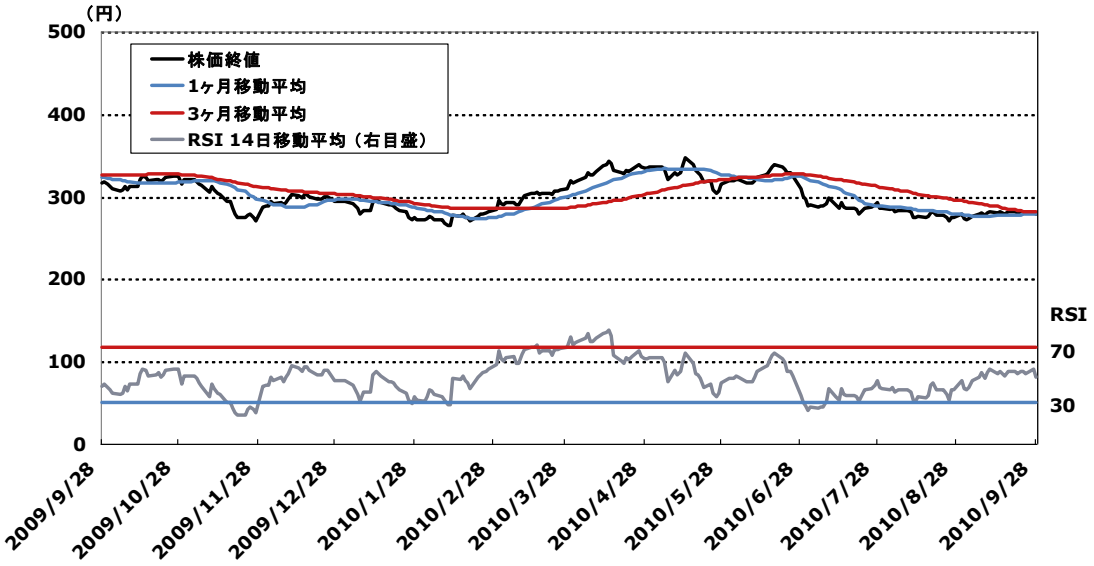
連結主要データ		
総資産(百万円)	2010.6月	29,846
自己資本(百万円)	2010.6月	21,186
有利子負債(百万円)	2010.6月	0
自己資本比率(%)	2010.6月	72.4
有利子負債比率(%)	2010.6月	0
フリーキャッシュフロー(百万円)	2009.6月	3,728

注:ROE=当期純利益÷期首と期末の自己資本の平均
ROA=当期純利益÷期首と期末の総資産の平均
PCFR=時価総額/(当期純利益+減価償却費)
日々平均出来高=過去1年間の平均
有利子負債比率=有利子負債÷自己資本
フリーキャッシュフロー(FCF)＝営業CF+投資CF

連結（百万円）	売上	営業利益	経常利益	純利益	1株益(円)	1株配(円)
2007年6月期	7,588	-1,175	-988	996	18.13	8.00
2008年6月期	23,674	1,797	1,934	609	11.10	20.00
2009年6月期	23,308	1,548	2,076	966	17.60	20.00
2010年6月期	25,855	2,312	2,915	2,132	38.85	16.00
予2011年6月期第2四半期(累計)	11,700	950	1,200	700	12.75	8.00
予2011年6月期	26,000	2,200	2,700	1,600	29.15	8.00

注:　2011年6月期予想は、2010年8月19日発表の会社予想

株価チャートと RSI



出所：Bloombergのデータをもとに**Trias**作成
注：　**RSI(Relative Strength Index)**とは株価の「買われ過ぎ度」や「売られ過ぎ度」を指数で表したもの
一般的に**RSI**が**70**を超えると高値圏、**30**以下では安値圏に位置していると言われている
RSI= N日間の値上がり幅平均÷(**N**日間の値上がり幅平均+**N**日間の値下がり幅平均)**x100**

このメモは投資判断の参考となる情報の提供を目的としたもので、投資勧誘を目的として作成したものではありません。このメモに記載されている内容は、信頼できると考えられる情報に基づいて作成されていますが、当社はその正確性・完全性を保証するものではありません。また、ここに記載された内容・意見は当該説明会時、ならびに/あるいは取材時における判断であり、今後、事前の連絡なしに変更されることもあります。 投資に際しての最終決定は投資家の皆様ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。

Copyright © 2010 Trias Corporation.　All rights reserved.